

理系女子目指せ

中高生 筑波大で体験合宿

「リケジョ（理系女子）」を目指す女子中高生を対象にした筑波大主催の「夏休みサイエンス体験合宿」が5～7日の3日間、つくば市の同大で開かれた。県内外から102人の女子中高生が参加し、女性研究者やリケジョの同大生と交流を深め、将来になりたい職業について考えた。

合宿は、女性研究者との語り合いやトークショー、科学実験などで構成。参加者の半数は県外からで、遠くは北海道や兵庫から参加。中学生と高校生の割合は半々だった。

同大の研究室を訪ねるプログラムは6日あり、惑星観測ができる望遠鏡の製作や脳コミュニケーションなど、14項目の実験体験が用意された。このうち、応用理工学類の小林正美准教授（54）の研究室では化学や物理、電気などの実験を実施。参加者は、IH（電磁加熱）調理器の電磁波でアルミホイルが浮かぶ実験などに驚いていた。参加者の一人、土浦日大高1年の宇津木ちひろさん



リケジョの筑波大生から科学の楽しさを教わる女子中高生＝つくば市天王台の筑波大

（15）は「科学者やパイロットなど、将来やりたい職業を明確にしていた。（今橋憲正）いる仲間と出会え、刺激になった」と話していた。